

中川村新しい学校新聞

第3号 / 2026.02.05

発行元 / 中川村教育委員会

企画編集 / 学校をともにつくる会

新校舎の全面建て替えは財政悪化…

これは、最大のピンチなのか？

た場合に、校舎の全面建て替えは、村の財政状況が非常に悪化する見通しであることがわかりました。また、各種助成金の制度活用についても検討しましたが、十分な配当が見込めないことが分かり、新たな学校の全面建て替えは困難であるとの見解に至りました。



教育委員会では、6月から新設校舎についての詳細検討を進め、10月のシンポジウムでは、早稲田大学田中研究室作成の模型で校舎のイメージをお示しました。しかし、併行して9月から始まった役場庁内での学校建設に係る財政面での検討の結果、今後予定されるリニア工事関連事業、望岳荘の改修、チャオ周辺整備など大型事業を行う

そうした状況で行われた第5回新たな学校づくり委員会では、早稲田大学田中先生より心強いご意見をいただきました。「悲観する必要はまったくありません！世の中には既存校舎を改修して小中一貫校や義務教育学校にして

いる事例はたくさんあります。

今までの校舎を最大活用へ！

よい事例を参考にしながら、新たな学校づくり委員の皆さんが検討を進めてきた素晴らしい教育の基本計画を基に、また研究室の学生たちとワクワクするものをつくって見せたいと思っています。ぜひ一緒に、ショボン



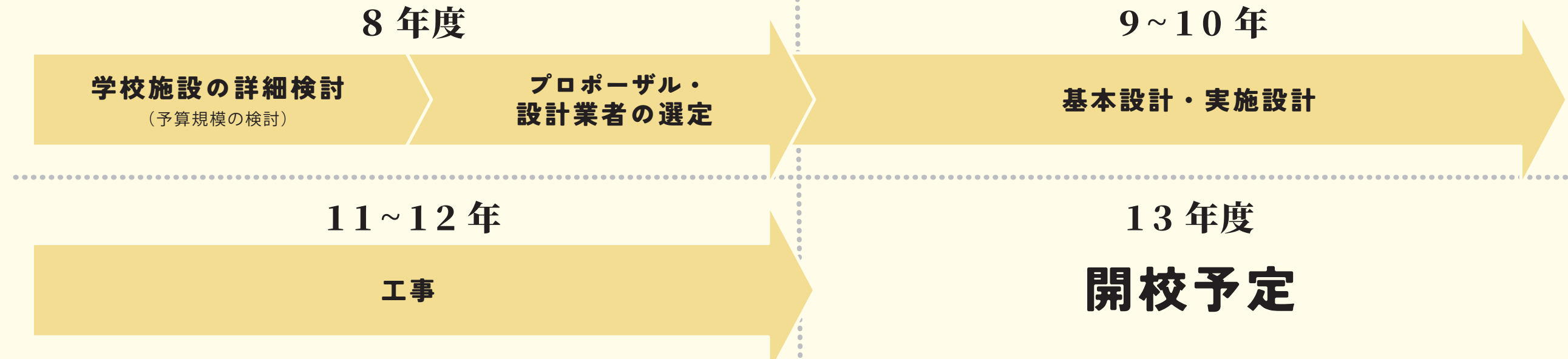
とすることなく取り組んでいきましょう。今回の計画変更も含めて新たな学校づくりは、子どもたちにもよい教育になると思っています。

今あるものをうまく使っていくとか、先を見据えながら常に最適な判断を繰り返して

いく時代だと思うので、そういった意味でも今回の流れがこうなってきた、と後で思えるような計画を皆さんと共に形にしていきたいと思っています。

教育委員会では、このピンチをチャンスに変えるべく、既存校舎の最大活用に舵を切ります。

今後のスケジュール（見通し）



計画変更を受けて新たな学校づくり委員会メンバーのご意見

「もっと早く財政状況を言ってもらえば違う形もあったのではないかな。」

「シンポジウムで田中研究室の学生のみなさんが作ってくれた模型を見たみんなのうれし顔も今となってはむなしくなりました。」

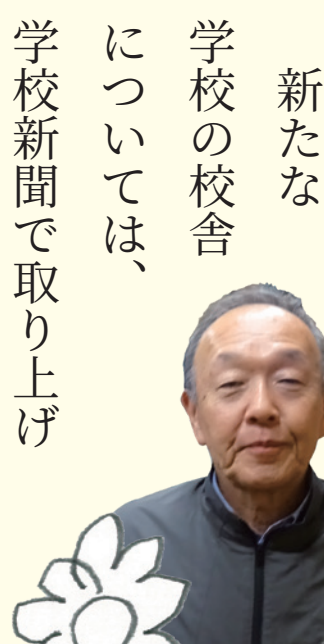
「これまでは、お金とか物理的な制約なく自由に考えて議論していきましようという話だった。この議論が全部ダメになったわけではなく、こんどは制約の中で、どう実現させていくか前向きな方向に変えて行かなければいけない。」

様々なご意見をいただきました。真摯に受け止めていきたいと思っています。



がんばります。

ブレることなく歩みを進めます！
片桐俊男（教育長）



新たな学校の校舎については、学校新聞で取り上げていただいたとおり方針を変更しましたが、これまで村民の皆様と一緒に新たな教育や施設の在り方について検討を重ねてきた土台がしっかりとありますので、ブレることなく歩みを進めることができます。

これからも、是非学校づくりにご参加ください。どうぞよろしく願っています。

編集後記

新校舎建設という当初の計画から、今までの校舎を最大活用するリメイクへと大きく方向転換した「新しい学校」は、今まで以上に皆さんの知恵や協力が必要となるはず。引き続き、皆さんとともに学校をつくっていききたいと思っています。

ご意見、ご感想ありましたら公式インスタグラム、もしくは備え付けの郵便ポストにお送りください。



学校をともにつくる会
公式 Instagram

立ち上げ中川村 第三号 絵/はなえ

